

ACUMMO

新型コロナの診療風景と
東西医学の活用

No. 9 2022

【平岡】「コロナ禍になり早2年が経過しています。ともにもクリニックは、神奈川県内で発熱診療を実施している医療機関として登録されています。発熱診療をしていないクリニックもある中、どのような思いで診療されているのでしょうか？」

街のクリニックでの新型コロナウイルス診療の風景

2020年に始まったコロナ禍は、2022年になり丸2年が経過しました。相次ぐ新しい変異株、ワクチンの開発、後遺症の問題など、まだまだ予断を許さない状況は続いています。今回のACUMMOでは、このパンデミックのさなか、街のクリニックではどのように対応してきたのかをインタビューしました。「もしかしてコロナにかかってしまった？」となったときに、私たちはどのように診療を受けられるのか、後遺症はどうなっているのかなど話を、横浜市内で発熱診療も行っている、ともにもクリニックの村朗子院長と石川家明副院長に伺いました。漢方内科もやっておられるので新型コロナウイルスに対する東洋医学の活用についても伺っていきます！

【平岡】もし私が「あれ、カゼっぽい」のではないかと思います。

クリニックを開けている以上、感染症診療は避けようとしても避けられるものではなく、どちらにしても患者さんから相談を受けるものです。ですから、クリニックとして診療できる状況になれば、体制を整えてお手伝いすべきだと考えていました。カゼ症状は内科で最も多い訴えの一つですが、カゼかコロナかを初めの症状だけで見分けることはほとんどできません。カゼ症状がある人を診ないといふのは多くの患者さんが困ってしまうから、「コロナ疑いの方は診ない」という選択肢はありませんでした。流行している地域では、カゼ症状のある方はみなさん新型コロナウイルス感染症かもしれない、と思って診察するのが適切な対応なのではないかと思っています。



「微熱も出てきたぞ」となったときには、診察の流れはどのようになるのでしょうか？」

【平岡】院内での感染のリスクは怖いところだと思いますが、どのような感

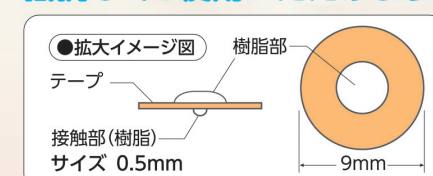
「微熱も出てきたぞ」となったときには、診察の流れはどのようになるのでしょうか？」

【木村】まずは、電話で相談してください。症状の経過をお聞きして、検査が必要と判断した場合には来院時間をご案内します。感染症診療では、他の患者さんへの感染を防ぐため一般用とは別の入り口から入っていただき、隔離部屋までの動線もできる限り分ける必要があります。消毒や換気もしなければならず、頑張っても30〜45分に1人しか診ることができないため来院時間を管理しています。隔離部屋でお待ちいただき、我々はN95マスクやフェイスシールドなどを装着して電話では足りなかった情報を手短かに聞きに行きます。そこで体温や酸素飽和度なども確認してPCR検査のために唾液採取や鼻咽頭検査を行います。あとは、お薬を出して診察はおしまいです。

そのときに自宅療養や同居人との隔離の方法など必要な情報をまとめた資料もお渡ししています。PCR検査の結果は翌日以降に出るため、結果が出次第、患者さんに電話でお伝えする、というのが当院の診療の流れです。

お疲れ気味の全ての女性に
家事に仕事にお疲れさま
あなたの毎日の疲れにピタッとひとりはり
初めての方でも簡単にお使いいただける親切設計で
ツボを優しく刺激して、こりを緩和
さあ、明日もまた頑張りましたよう

はりが苦手な方にも、
抵抗なくご使用いただけます。



目立たない!

テープ径が9mmと
小さいのでかぶれにくく
目立ちません。

※効果には個人差があります

使い方も簡単!

シールを剥がすだけで
簡単に貼れます。
一枚のテープに樹脂を固定
しているので、接触部が取れる
心配はほとんどありません。

肌に優しい!

接触部が樹脂になり、
金属アレルギーの方にも
ご使用いただけます。



一般医療機器【家庭用貼付型接触粒】※滅菌済み
届出番号:22B1X00006000005

エリ スポット

染対策をされているのでしょうか？

【木村】「コロナ疑いの患者さんに対するときの感染対策は先程お話しした通りですが、お帰りいただいたあとは動線上の手が触れる場所のアルコール消毒と十分な換気を行い、リネン類も定期的に交換しています。一般外来の待合室も、午前・午後の診療後にはアルコール消毒を行い、換気もしています。一般外来の患者さんも待合室が混んできたら、空いている部屋に移ってもらったりして密な状態はできる限り減らすようにしています。」

【石川】「家庭での感染対策では、優先度から言うと、食事を一緒にの空間や時間にとらないことはとても大事だと思います。あとは完璧な感染対策を行おうと焦るのではなく、「出来る範囲で気を抜かず」対策することが大事です」と伝えていきます。

【木村】「この2年間のインフルエンザ感染者の低さは目を見張るものがありますが、それだけ基本的な「標準予防策」というのは有効なのです。逆に言えばインフルエンザがほとんどなくなるくらい感染対策されている社会の中で、ここまで感染拡大している新型コロナナはやはり脅威です。」

【石川】「その一方で、感染対策をしっかりやっている当院スタッフは、陽性患者さんと接していても一度も感染していないですから、気を抜かず個人が

アでも報じられるようになってきていると感じますが、どのようなものなのでしょうか？

【木村】「症状は大きく二つに分かれ、咳や呼吸困難、倦怠感、嗅覚・味覚障害などの新型コロナ感染症の症状が長引くものと、集中力低下、記憶力障害、うつ、脱毛などの回復後に出現して長引く症状があります。日本人450人ほどのアンケート調査によると、約4人に1人は回復から半年たつても何らかの症状が続いており、約11人に1人は1年たつても症状が続くようです。しかもこの450人は84%が軽症者です。海外の報告では罹患時に重症だった人ほど後遺症の程度も重いと報告されています。」

「コロナにかかってもただの力ゼだから大丈夫」というのは後遺症のことを考えただけでも危険な考えだとわかると思います。後遺症の一番の対策は新型コロナナにかからないこと、感染対策の気を緩めないことです。」

【石川】「味覚・嗅覚障害が続けば毎日の食事が半年近く辛いものになってしまいかもしれません。倦怠感が続くとかよつと動いただけでも疲れてしまйнаかなか復職できません。ひどい場合にはほとんど寝て過ぐさないといけない人もいます。新型コロナ感染症の後遺症をあらわどつてはいけません。」

【平岡】後遺症にはどのように漢方薬や鍼灸を活用されるのですか？

対策することは新型コロナ感染症にもしっかりと効果があるということですね。

【平岡】「昨年7月に始まった第5波や、今年1月から拡がった第6波でも多くの患者さんがいらしたと思うのですが、流行時のクリニックはどんな様子なのでしょうか？」

【木村】「ピーク時は発熱相談が日に10件を超えることもありました。症状があれば、検査よりも外部との接触を減らすことが最優先です。症状や住んでいる場所によっては来院せずにご家族に唾液容器だけ取りに来ていただいたり、明らかに感染者と濃厚接触していれば「みなし陽性」と診断して来院せず電話診療にしたり、高齢者で来院が難しいようであればこちらから訪問に伺ったりと、限られた時間の中で状況を鑑みてよりよい対応を模索していました。」



【石川】「検査結果がでるのは早くて翌日なので電話でお伝えするのですが、保健所からの電話がなかなか来なくなってしまった時期は、自宅療養の説明やご家族との隔離のやり方、職場への連絡や濃厚接触者への対処なども案内していま

【木村】「身体のことをお聞きしたり舌と脈を診たりして、そのときに合った漢方薬を処方しています。症状が改善するまでは漢方薬を続けて飲んでいただきます。人により心身の状態が異なるため、大人数に対して科学的なデータを出すことが難しいのが東洋医学の難しいところなのですが、回復後も症状が治りきらない方に飲んでいただく症状の改善が早く感じますし、患者さん自身も飲んで変わったと感じる方が多いようです。」

【石川】「鍼治療は、筋肉をゆるめたり神経の働きを調整したりすることが得意であることが様々な研究からわかっています。味覚・嗅覚障害などは神経細胞へのコロナウイルスの影響が指摘されていますから鍼治療で効果を上げやすい症状だといえます。鍼治療は脳内物質を増やす作用も知られていますから、集中力低下、記憶力障害、うつなどにも一定の効果があると考えられます。咳や呼吸困難といった症状も、呼吸筋を緩めたりすることで効果が上げられるでしょう。私は実際に味覚・嗅覚障害や疲労感が残ってしまった患者さんの鍼治療を行っています。数回の治療でほとんど味と匂いを感じない状態から食事を楽しめるくらいの状態まで改善することを経験しました。そこから完全に回復するまでは時間がかかることがあります。生活の質（QOL）の観点からは十分な効果が

した。大変ですが感染を広げないためには必要なことです。第6波のピーク時は発熱相談の電話と結果報告の電話に加えて、3回目のワクチン予約の電話もかぶってしまい、さながらコールセンターのようになっています。」

【平岡】「大変な光景が目に見えがぶようです。ここで一般の方に向けてのお願いや伝えたいことはありますか？」

【木村】「喉が痛いだけから、37.5℃には達しないから」という理由でコロナではないと考える方が結構いらつしやるのですが、新型コロナ感染症は無症状の方から死に至る方まで、症状の程度は非常に幅広いのです。「ちよつと喉が痛い」程度の軽いものでも、流行地域では「力ゼだろ」とではなく「コロナかもしれない」と考えて、周囲に感染を広げない行動をとってください。仕事を休み、必要であれば電話で相談してください。」

【石川】「そして可能な限りワクチンは打っていただきたいと思います。様々なお考えや事情があると思いますが、強制はできませんが、接種した方の感染率と重症化率が下がることは世界中のデータが示している事実です。さらに集団免疫という考え方もあります。リスクを減らす一人ひとりの行動が、その人自身のみならず社会全体の感染者数や死亡者を減らしてくれます。」

あると感じています。

【平岡】「西洋薬ではまだ後遺症に有効な薬は少ないですから、希望のあるお話ですね。近くに漢方を出してくれるところがない人や、鍼灸を受けるのに抵抗のある人になにか伝えられることはありますか？」

【木村】「まずは後遺症外来をやっている病院に相談するのは一手だと思えます。東洋医学も試してみたい方は、漢方であればクリニックや病院以外にも漢方薬局などもあるのでお住まいの近くなにか探して相談してみるのいいと思います。」

【石川】「鍼灸院はコンビニよりも多いと言われていますから、近所にもきつとあるはず。ただし、治療院ごとの違いが大きいため、あらかじめホームページを調べたり、直接電話で聞いてみたりするのもよろしいでしょう。痛みを不安に思つ方もいますが、鍼は髪の毛ほどの太さなのでほとんど痛くありません。心配いりませんよ！ほとんどの患者さんは鍼独特のずーんとするよつな、鍼の響き」と呼ばれる感覚を気持ちいいとおつしやつて治療中に寝てしまっていますから。」

【平岡】「ありがとつございました。最後に一言お願いします。」

【木村】「東洋医学は西洋医学が苦手なところにも手が届く医療だと思います。東西両医学を併用できることが、

新型コロナウィルス感染症と東洋医学

【平岡】「ともともクリニックは内科・糖尿病内科のほかに漢方内科も標榜されています。また副院長の石川先生は鍼灸師でいらつしやいます。漢方薬や鍼灸治療をコロナ診療どのように活用されているのでしょうか？」

【木村】「現状では、軽症者に対しては西洋薬で「治す」ものは限定的で、対症療法がほとんどです。昨年末によつやく1つの薬が特例承認されましたが、軽症者全員に処方するよつなものではありません。漢方薬は、中国では早くからコロナ患者に使用されて成績をあげていますし、当院で処方していても症状の改善が早いと感じます。特に咽頭痛にはとてもよく効いてくれています。西洋薬と併用もできるので、症状が強くて辛い方には西洋薬の解熱鎮痛薬や咳止め薬などを一緒に処方できることも強みです。」

【石川】「鍼灸治療については、30分〜1時間ほど空間を共有する治療法であるため、感染対策の観点から今まさに感染している患者さんへの治療は行いません。むしろ最近少しずつ認知され始めた新型コロナ感染症後遺症に有効だと感じています。」

【平岡】「新型コロナ感染症後遺症」は去年の年末あたりから少しずつメディア

病気を一層早く治す良い方法だと臨床を通して感じています。」

【石川】「新型コロナ感染症の後遺症は早めに治療を行う方が治りも早いでしょう。漢方治療も鍼灸治療もそうですね。後遺症で悩んでいる方々は、ぜひお近くで鍼灸治療を受けることをお勧めしたいです。」

木村朗子

糖尿病内科専門医 総合内科専門医
2006年 北里大学医学部卒、2012年、順天堂大学附属浦安病院非常勤助手、同年ともクリニック院長

石川家明

1951年生まれ、1975年 日本針灸理療学校卒、1976年 石川鍼灸院開業、1980〜82年 神奈川県立七沢リハビリテーション老人病院研修生、1985〜2018年 鍼灸専門学校講師5校を歴任、1995〜2010年 神之内クリニック東洋医学科室長、1991〜2005年 生活クラブ生活協同組合神奈川顧問、2001年 TOMOTOMO（友と共に学ぶ東西両医学研修の会）設立、2012年ともともクリニック副院長

（インタビュー 平岡 遼）

発行：公益社団法人神奈川県鍼灸師会
〒231-0002 横浜市中区海岸通4丁目21番
倉田ビル5階
電話／FAX：TEL／045-228-8946
FAX／045-228-8979
https://kanagawa.harikyuo.or.jp/
発行日：令和4年3月25日